

分類	検 査 項 目	検 査 の 説 明
尿一般	尿蛋白	尿路（腎臓から尿道まで）の異常発見の手掛かりになる検査です。ただし運動・薬物・寒冷・ストレス等の影響を受けることもあります。
	尿潜血	
	尿pH	
	尿比重	
	ウロビリノーゲン	肉食後・運動・疲労・飲食・便秘・また肝機能障害・内出血・腸閉塞などで増量します。
	ケトン体	糖尿病・過脂肪食・嘔吐・脱水・下痢・消化吸収障害などで陽性になります。
尿沈査	赤血球	尿路（腎臓から尿道まで）の異常発見の手掛かりになる検査です。ただし運動・薬物・寒冷・ストレス等の影響を受けることもあります。
	白血球	
	上皮細胞	
	円柱・その他	
腎機能	クレアチニン	《腎機能は血液検査で調べています》 アミノ酸の一種であるクレアチンが代謝されたあとの老廃物のことで、血液中の量から腎機能の障害の有無を調べます。筋肉量に比例するため正常でも年齢や性別で差があります。
	eGFR (推定糸球体ろ過量)	血清クレアチニン値をもとに、年齢・性別などを考慮し算出します。 腎機能の評価に用いられ、特に腎臓病の早期発見・早期治療に有用です。
	尿素窒素	たんぱく質が分解されるときにできる老廃物の一種です。尿中に排泄されますが腎機能に異常があると血液中に増えるため、その量を測定します。
前立腺	PSA	血液検査で調べる前立腺がんの検査です。 前立腺がんのほか、前立腺肥大や前立腺炎などでも高値を示します。
心電図	安静時心電図	心臓が送り出すときに発する電気を読みとり、波形として記録します。 不整脈・心筋疾患（心筋梗塞・心筋症・心肥大等）・弁膜症などの心疾患の診断上欠かせない検査ですが、その情報には限界があります。心臓病が疑われるような自覚症状がある場合は、安静時心電図で異常がなくても他の諸検査を受ける必要があります。
	心拍数	心臓の拍動数です。（通常は1分間の数で表します） 平均的な心拍数は 60～90拍で、心拍数が100を超える場合は頻脈、60を下回る場合を徐脈といいます。 心拍数に影響をあたえるものに心臓疾患、ストレス、運動、自律神経などがあります。
胸部	X線	胸部にX線をあて、肺や心臓の病気、骨折や炎症、腫瘍などを調べます。 呼吸器関連の病気や症状は、肺結核・肺炎・肺がん・肺線維症・肺気腫などがあり、循環器関連の病気や症状は、心肥大・心不全・大動脈硬化症などがあります。
肺機能	努力性肺活量	スパイロメトリーという機械に思いきり息を吹き込み、肺活量（吐き出した空気の数）を測定します。 重要な指標は%肺活量と1秒率です。 %肺活量が低下する場合に関連する病気や症状は、肺結核・間質性肺炎・肺線維症・咳・痰・息切れなどです。 1秒率が低下する場合に関連する病気や症状は、慢性閉塞性肺疾患（COPD）・気管支喘息・咳・痰・息切れなどです。
	%肺活量	
	%1秒率	
	1秒率	
喀痰	喀痰細胞診	痰に含まれる悪性細胞の有無を調べます。肺門型肺がんの発見に有用です。50歳以上で喫煙指数（一日の本数×喫煙年数が600以上の方）にお勧めします。